

## 2. 測定

## 2. 測定

### (1) プローブと牛体との密着

プローブの表面と牛体の測定部位との密着が悪いと超音波が牛体中に届かず全体に暗い画像となったり、黒線が映し出されることがあり、非常に見難い画像となる。このようなことをなくすため、測定時には人間もしくは綿羊用電動バリカンなどで測定部位を毛剃りし、食用油などを塗布して行うとよい（図3、図4参考）。毛刈りが行えないようであれば、金ブラシなどで体毛をとかし綿毛やほこりを落としてから食用油を塗布し、体毛と充分馴染ませてから、プローブの端などで体表をこすり、体毛中の空気を取り除いてから測定を行うとよい。測定時間短縮のためにもバリカンでの毛刈りを勧める。



図3 毛刈り



図4 食用油塗布

### (2) 測定人員

測定の際にはプローブを牛体に当てる者と、画像を見ながら装置本体を操作し、画像を記録・判定する者の2名で行うことが望ましい。装置を操作している者は画像を見ながらプローブ操作者に指示を出す（図6参考）。プローブを当てながら、画像を見ると、プローブが正しく牛体に接着できないことがある（図5参照）。牛の動きに俊敏に反応できず、術者や装置が危険にさらされることもある。



図5 悪い測定

- ・一人で測定を行うとプローブの操作がおろそかになる。
- ・牛の動きに鋭敏に反応できない。



図6 良い撮影

- ・撮影は二人で行うこと。
- ・装置本体を操作している人が画面を見ながらプローブ操作者に指示を出す。

ポイント

- ・測定にはバリカンと食用油
- ・測定は2人で行う